



大垣市議会議員 種田昌克 活動報告

はなしの種 vol.10 未来に向けて種をまきます!

発行：おいだ昌克後援会

事務所：大垣市二葉町 8-6-1 TEL/FAX：0584-77-2288 携帯：080-3063-2556

ホームページ：<https://oida-masakatsu.jp/> E-mail：info@oida-masakatsu.jp



🌐 ホームページ



📺 YouTube チャンネル



📞 公式 LINE アカウント

それぞれのQRコードをスマホのカメラ機能で読みとれば見ることができます!

▶▶ 2期目もがんばります! ▶▶



「諸君の学ぶところを、諸君自身の利益の為に用いず、世のため、人のため、^{こと}殊に弱者のために用いよ。虐げるものとなることなく、虐げられたものを救う人となれ。諸君の生涯を高貴なる目的のためにささげよ」

4月23日投開票の大垣市議会議員選挙において、1,960票を頂き2期目を迎えることができました。これからの4年間、学生時代の恩師のこの言葉を胸に、みなさまに寄り添い、お役に立てられるようにがんばります!



令和5年 第2回定例会 (2023.6.5 ~ 6.20) 一般質問しました!

市民会館の廃止に伴う避難所の確保について

Q 地域の代弁者として、市民会館避難所の代替施設について、地域のみなさんが一刻も早く安心できるように、できるだけ早く、代替りの避難所を指定していただくことを強く要望します。

A 現在、施設の規模や利便性を踏まえ、近隣において複数の候補地の調整を進めています。

POINT

▼現在の市民会館から遠くなく、医療介護や食事などの面でも安心できる施設を新たな避難所として指定していただくよう強く要望しました。

市民プールの現状と今後について

Q 市民プールは、1989年(平成元年)に開設されました。スポーツ庁によると、全国的に公営プールは減少の一途をたどり1996年と比べると、約4割減って全国で3,194か所となっております。市民プールの現状と今後の活用についてはどのように考えていますか。

A 今年度、ウォータースライダー鉄骨階段の点検委託及び修繕工事で約500万円を予算計上しています。安全・安心を最優先に施設の適切な維持管理に努め、引き続き活用していきます。



POINT

▼5月25日に市民プールの配管設備などを確認させていただきました(写真左)。
▼実は、学校プールについても、老朽化している学校が多くなっています。プールを建て替えると億単位の費用がかかります。将来的には、市民プールなどを使ったり、民間プールを使って授業をすることを検討しなければならないと思います。そうすれば、子どもたちは専門的な指導を受けることができ、清掃などの教師の負担も少なくなり、年間の維持コスト安く済むのではないかと考えます。

桜の名所の維持について

Q 水門川などの桜並木を見ていると、幹がこけむしていたり、樹皮がはがれてきていたり、花の数が少なくなってきた木も見られるようになってきました。ソメイヨシノの寿命は、一般に60年から70年とのことです。名所維持のため、長寿化、計画的な世代交代など、今後どのように取り組んでいきますか。

A 損傷個所の手当てによる桜の樹勢回復や、若木への植え替えなど、桜並木の景観を維持したまま世代交代していく取組を計画的に進めていきます。

提案

▼大垣の桜の木から桜酵母を抽出し、それを使った「パン」や「清酒」などをつくってはいかがでしょうか。大府市では「桜舞」という清酒を販売されています。花見にはもってこいだと思いますが・・・。



介護予防教室「買い物deリハ」について

Q 65歳以上が総人口の約3割を占める超高齢社会において、健康寿命を延ばすことが個人にとっても社会にとっても重要となっています。現在、日本人の平均寿命と健康寿命の間には約10年の開きがあり、多くの方はこの期間を介護が必要な状態で過ごしているのが現状です。こうした課題に対応すべく、この4月から試行的に「買い物deリハ」事業を開始されました。これは、買い物を楽

しみながら同時にリハビリをしようという斬新な試みですが、今後どのように事業展開されていきますか。



A 介護予防の取り組みの重要性を再認識し、市民ニーズの把握に努めながら、事業拡充について検討していきます。

POINT

▼本市の介護保険給付費は、約11.8億円(平成29年度)から、約13.1億円(令和3年度)へと増加。2040年には、何と187億円に上ると推計されています。今後さらに、国や自治体の財源確保が課題となります。「買い物deリハ」などのフレイル予防事業に参加していただき、みなさんが元気に生活できるようにになり、社会保障費の抑制にもつながれば、みんなにとって良いことだと思います。

▼国は、介護保険保険者努力支援交付金などの「インセンティブ交付金」を導入し、介護予防等の取組みに積極的な自治体への交付金配分を増額するなど、成果を上げた自治体には大幅拡充するようになりました。これにより、フレイル予防で健康寿命を伸ばそうと努力する自治体が増えてきています。豊田市では健康寿命を延ばして、今後、介護保険給付費10億円の削減を目指す取り組みをしています。

※フレイル・・・心と体の働きが弱くなってきた状態 ※インセンティブ・・・報奨金

公共交通とまちづくりについて

Q 「公共交通」は、自動車免許を持たない若い人や、免許を返納した高齢者など日常的に移動が不便な人たちのために必要不可欠なものであり、市民のみなさんにとって重要度が高い分野のひとつです。環境負荷や渋滞、中心市街地の衰退、行政コストの増加、都市インフラの維持コスト拡大など多くの課題を生み出す自動車中心のまちづくりはいつか限界を迎えるように思います。自家用車に頼りすぎない選択肢のあるまちづくり、高齢者も含めた活力あるまちづくり、環境にやさしいまちづくりのためにも公共交通の役割は大きいと感じています。本市における「新しい公共交通のかたち」は。

A まちづくりと連携した公共交通ネットワークの形成や、移動ニーズに対応したサービスの提供を行うと共に、次世代交通等の新しい技術に関する情報収集にも努めるなど、誰もが利用しやすい持続可能な公共交通の充実を図って参ります。

POINT

▼岐阜市や桑名市で「自動運転バス」の実証実験が行われております。昨年、実証実験に参加させていただき、信号機のある交差点や対向車とのすれ違いなど、人の操作が必要な場面もありましたが、そういう時代がすぐそこまで来ているのを実感しました。

スイトピアセンター駐車場の支払い方法などが変更になります！[令和6年10月から]

▼現在 475 台分の駐車場がありますが、駐車場使用料が 2 時間までは「無料」、2 時間以上は一律「200 円」となります。また、出庫時に全機械化による料金精算となります。



安井小トイレ改修(南舎1階)

▼夏休み期間中に工事します。新学期には男女にわかれた新しいトイレが完成する予定です。

小野小グラウンド改修

▼夏休みから水はけを良くするための工事を開始し、12 月下旬に完成する予定です。みなさま、ご協力をお願いいたします！

長沢公園の整備について



5/28 大垣市水防演習に参加しました。(野口町地内杭瀬川右岸堤)

6月からの出水期にむけて、市内消防団、建設業協会がさまざまな水防工法を披露されました。



6/18 お米の楽校

今年も地元の農家のみなさんといっしょに開催。市内から 20 人の親子が参加しました。開校式のあと、どろんご遊びをしたあと田植えにチャレンジしました。おいしい減農薬米を育てていきます！
かかし
次回は8月に案山子作りを予定しています。



好書好日 Good Life With Books



「人の痛みを感じる国家」 柳田邦男 新潮社

▼ヤナギダクニオという、「遠野物語」で有名な柳田國男(1875～1962年)とふたりいますが、こちらは、『マッハの恐怖』で大宅壮一ノンフィクション賞を受賞している柳田邦夫(1936～)の作品。週刊誌の連載をまとめたものです。インターネット社会において、匿名で中傷や攻撃を繰り返す人々、ゲームに汚染され、心の発達が止まった子供たち。他人の痛みにまったく鈍感な役人たち……。日本人の精神はどこまで壊れてしまうのか。ネットやケータイの弊害を説き続ける著者が、大切なものを見失ってしまった日本人に警鐘を鳴らしています。15年前の本。ブックオフにて100円で購入。いま読んででもそのとおりだと共感しました。

映画「生きる LIVING」



▼黒澤明監督の不朽の名作『生きる』(1952)が第二次世界大戦後のイギリスを舞台に、ノーベル賞作家のカズオ・イシグロによってリメイクされました。

▼志村喬(1905～1982)が雪の降る中、ブランコに乗って♪「いのち短し、恋せよ乙女～」と「ゴンドラの唄」を口ずさむ名演で記憶にある方は多いかと思います。主人公(志村喬演じる市役所課長)は、ある日、自分が癌に冒されていることを知ります。そして今までの自分の仕事を反省し、子供たちのために公園を作るため奔走します。死に直面した公務員の生き方を通して人間の真の生きがいを探る感動作でした。私も20代のころにこの映画を観て感動し、大垣市役所に就職しました。

▼今回のリメイク版は基本的なストーリーはほぼ同じですが、主人公が部下に言う「紳士になることが夢だったのに、いつのまにか“死んでいるのに動いているだけのゾンビのような人間になってしまった。生きることなく人生を終わらせたくない」という言葉が印象的です。残された日々がわずかだと知ったとき、人間は一体何を求め、どう生きようとするのでしょうか。時代を超えて観る者の胸に響く作品です。

種田昌克プロフィール

1969(S44)年9月生まれ
安井小学校▶東中学校▶大垣北高等学校▶早稲田大学▶大垣市役所▶参議院議員秘書▶大垣市議会議員(2期目)▶現在、大垣市議会総務環境委員長、大垣輪中水防事務組合議員。